LUZ の熊野古道案内

2009 年　3 月　上

3 月 1 日　～　12 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００９年　３月

３月　１日　弥生　三月　熊野誓詞
３月　２日　有料道路・・・６００年前
３月　３日　紀勢本線も **50** 年　急行那智号
３月　４日　魚売り場が春らしく・・・小魚
３月　５日　そろそろ旬の終わり　高菜
３月　６日　月例　熊野市報　３月号より
３月　７日　４５年前　那智山　カラー写真
３月　８日　青岸渡寺　仏教伝来は？
３月　９日　現代の利害関係？　東牟婁郡
３月１０日　本日写真のみ　三輪崎駅
３月１１日　紀勢本線　西・東
３月１２日　紀勢本線全通５０周年だけど・・・

2009年　03月　01日

熊野の旅　弥生　三月　熊野誓詞

今日から三月…

旧暦ではまだ二月ですから、昔の季節感とはずれがありますが、弥生　三月　花の頃　になります。

落語の方では　高尾太夫が嫁に来るとやらの時期です。

熊野からは『高尾太夫』は出ていませんが、『油屋お紺』と言う悲劇のヒロインが出たのだそうです。

半世紀ほど前までの日本ではそれに類した身売りの話は一杯あったようです。

『おしん』は奉公に出されただけですけどね。

江戸時代の女郎につき物は、今の悪徳ホステスのお約束と同じように、客を手玉に取るためのお約束、『誓文』『起請』を書く事だったそうです。

今の時代は普通の紙でしょうけど、昔は熊野本宮大社の発行する『熊野誓詞』がないと始まらなかったようです。

『八咫烏（ヤタカラス)』って言う熊野権現の使いをちりばめてかかれたお札みたいなものですね。

こいつを大名から女郎まで約束事の時に取り交わす文書の様式に使ったのだそうです。

「日本法令様式」ではないですが、ずいぶん売れたそうで、本宮大社はずいぶん潤ったようです。

更にはこのお札を売って回る商売があって、これまたいかがわしい女が居たようです。

木版画に朱印なんて恐ろしく偽造しよい物ですから、偽者もふんだんに出回ったでしょうね。

売って歩く人間もいかがわしく、女郎の書く『起請文』などはもっといかがわしいものだったでしょう。

こうして、熊野三山も詐欺の片棒を担いだ時代もあったようです。

もっとも、この『熊野誓詞』も最初からそんな用途に作られたものではなく、ちゃんとお札として発行し、熊野三山詣の記念品、お土産として持ち帰られたものです。

奈良時代には確立していた、『お土産品』だったのです。

どうも、そうした悪い方に使われ、江戸時代には近松門左衛門の作品などでは、あまりよくない話のほうに出てくるようで、熊野権現も熊野にまつわる女もあまりよろしくないイメージがあったようです。

そうそう…八咫烏って足が三本の恐ろしげなカラスです。たしか、熊野交通のバスにも書かれていた時代があったように思います。

このカラスが『神武東征』の時に先導したのだとか・・・

中央政府の味方をし、地元豪族を裏切ったと言う見方も出来ますね。

歴史は裏と表があります。

残るのは勝者の歴史だけです。

敗者はせいぜい伝説に残ればいいほうです。

これらに関しては、検索していただければずいぶん色んなのが出てくると思います。

Tags:熊野古道 世界遺産 モノクロ　本宮大社　by **je2luz** | 2009-03-01 12:1

2009 年　03 月　02 日

熊野の旅　有料道路・・・６００年前

面白いものを見つけました。

『高速道路を紀州路へ』なんて看板があちこちに立ちはじめてから３０年ほどですか…ようやくあちこちで形が見えてきています。

『国直轄』なんて手法で非採算区間と分かっているところは『無料高規格道路』でやっています。

この、高速道路後進地の紀州に、『有料道路』だあったのは６００年も前です。

この有料道路とは…

『熊野参詣道中の小松原・山東・近露・塩見坂に警固を構え、寺社勧進と称し、参詣人より糧物を押収するため、これを廃すべき旨、治部大輔より紀州守護、尾張入道に命ずる』と速玉大社の古文書などにあるようです。

つまり、常設の料金所を熊野参詣道に作ってあったようです。
国境警備ではなく金取りですから、いかに大勢の人が熊野詣に来たかわかりますね。
今程度しか参詣道を歩く人が居なかったら。関所を作って人を配置する意味があまりなくなりますからね。
まあ、農地が少なく、年貢・税収の少ない山の中の豪族が目をつけた地方税の一つだったのかもしれません。
しかし、クレームが一杯付いたようです。
これを廃止させられたのが、ちょうど６００年前の応永１６年（1409）だそうです。

目の前を巡礼が沢山通ってもあまり沿道は潤わないし、中には本当に病気平癒祈願とかの巡礼も居たでしょうが、物見遊山の富裕層も多かったでしょうからそんなものを作ったのでしょうね。
これは大々的なものですが、他には私設のものもあったでしょう。
所謂、『山賊』と言われるやつですね。
今と違い、いったん国を離れたら、音信不通状態になり道中何かあっても分からないような旅ですから山賊もやりよかったでしょう。
もっとも、旅人相手の山賊専業なんてのは中々居なかったでしょうね。
本業は農民で副業で時々山賊なんて・・・もちろんこの収入は無申告で年貢はかからなかったでしょうね。
こんな連中が『野ぶせり』…『野武士』になり、この頃以降の戦乱の世を動かしだしたのでしょう。
でも、ご安心ください、今は日が暮れても山賊は出ませんからね。

カメラは　　**フレクサレット V・チェコスロバキア**

Tags:熊野古道 世界遺産 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-03-02 12:10

2009 年　03 月　03 日

熊野の旅　紀勢本線も 50 年　急行那智号

紀勢西線、紀勢東線がつながって、ようやく紀勢本線が姿を現して半世紀です。
まだまだ鉄道が主役だった時代でしたから、この開通は大きな期待を載せたものでした。
遠かった東京が少し近くなりました。
材木なども関西にしか出せなかったのが、貨物列車で大市場の東京に出始めました。
今ではうそだと言われるくらいですが、『恵比寿』に貨物駅がありました。この辺の製材が付き合うようになった材木問屋あての貨物は『恵比寿』に着けたのです。
荷扱いは『日通』…『丸通』でした。
熊野市が関西経済圏から中京経済圏に移り始めたきっかけがこの紀勢線全通でした。
これがつながるまでは、紀勢西線終点の熊野市・紀伊木本駅から紀勢東線の乗り場の尾鷲まで国鉄バス『紀南線』で 808ｍの矢ノ川峠を越え、42Ｋｍの道のりを 2 時間 40 分かかっていたのです。
今の特急だと名古屋まででも 3 時間 40 分ほどです。
紀勢線は希望の鉄路だったのです。

私が高校受験の時には、まだ『国鉄紀南線』の時代でした。
高校 3 年で予備校の夏期講習を受けに出る時には『紀勢本線』でした

もう、日本からは『ブルートレイン』が消えるとか言われますが、東京までのたびは『寝台列車』の旅でした。
まだ、『ブルートレイン』なんて言葉はありませんでした。
寝台車の車両が全部青くなったのはもっとあとですからね。
昭和 30 年代には三等車の茶色い車両が一杯走っていましたし、寝台車も普通席車両と連結されて運行していました。
紀伊勝浦ー東京駅は『急行那智号』でした。
寝台車と普通席との混成編成で、最初の頃には確か一両の半分が一等車なんて車両を使ったこともあったと思います。
この列車『那智号』は東京駅を出る時は他の列車との混成でした。
東京駅ー伊勢市駅の『急行伊勢』と多気駅で別れます。
その前に、名古屋駅で、東京駅ー金沢駅の『急行能登』と別れたり。東京駅ー大社駅？の『急行出雲』と別れたりしていました。
東海道を単独で走るほど乗客が居なかったと言うことです。

スタート時点からあまり見込みの無い線でしたから、この夜行急行列車も東京駅を出るのがやたらと早かったのです。
もちろんこちらからも早く出ます。
道中は着時間に合わせるため時間つぶしでのんびりゆっくり途中停車します。
たった 500ＫＭほどを 11 時間かけて走ったのですからね。止まっていないと早くつきすぎるのです。

それでも、「こちらから東京に向かうと、東京駅着が 7 時ごろ…ちょいと早すぎる時間でした。
今のように 24 時間営業の店なんて無かった時代です。
何も無い東京駅周辺で、ただ一軒、八重洲口正面左側、今のブックセンターのあたりに食堂が開いていました。
下宿へ行くのも早すぎるし、そこで朝飯を食べたものです。
東京駅駅前だのに「大衆食堂」『駅前食堂』でしたね。
熊野市駅の前には 4・5 軒の駅前食堂があった時代です。
改札を出ちゃうと、山手線の切符が改めて要るのですが、時間つぶしに高田馬場まで歩いたり…料金が変わらない千葉の近くまで切符を買っておいて東京駅を途中下車にしたりしましたね。

熊野から東京に向かうのは寝台、東京から熊野に帰るのは普通席…懐具合を示すものですね。

新幹線の無い時代に東京と紀州を結ぶのはこの列車だけでしたから、東京駅夜 8 時ごろ 15 番線に行くと見たことのある顔が散見されたものです。
東北の人じゃないからか、わざわざ故郷訛りを聞きに行くほどホームシックにはかかりませんでしたがね。

考えてみれば、たった 4 両ほどの列車でまかなえるほどしか東京との交流は無かったってことです。
それが満員になるのは暮れと正月、夏休み前半くらいですからね。
今の時代の特急が空っぽでも仕方ないですね。
夜行も列車が無くなりうんと小さなバスになっていますが、これも中々一杯にならないようですしね。
連休とかでなければ、思いついた時に池袋からバスに乗れば、朝には『熊野古道』を歩けますよ。

運行は西武と三重交通です。往復 2 万円でお釣りがあります。

『一回、来てみやんし』

カメラは　　オリンパスワイド
Tags:熊野市 JR 紀勢本線 モノクロ　特急南紀　　by **je2luz** | 2009-03-03 14:24

2009 年　03 月　04 日

熊野の旅　魚売り場が春らしく・・・小魚

桜が咲くには少し早いですが、海のほうでは春が来ているようです。
「しらす」「かたくちいわし」「きびなご」「こあじ」・・・並ぶ量が増えてきました。
大型の魚と違い、日持ちしない小魚類は漁場に近い田舎と、大消費地の大都会でなら季節どおりに食べられると思います。

「しらす」も干して固くなったものより、釜茹で仕立てのほうが私は好きですね。
しかし、こいつは意外とおかずになりませんね。醤油を掛け熱々のご飯に混ぜるとおいしいのですが、おかずにはなりません。
それと…ご飯が一膳進んでしまいます。

「いわし」の類や「あじ」は細かいものは『から揚げ』が一番簡単でおいしい食べ方みたいに思います。
少し大きくなると、甘辛く煮る人も居ますし、お造りにもしますね。
包丁なしでさばけるのがこうした魚の良い所なのですが、生魚を素手でいじらなくては成らないのが嫌な奥様方も多いようです。
新しければ決して生臭くはならないのですけどね。
こうした魚は、食べる直前に捌かないと傷み（足）が早いですから、帰る時間の当てにならないだんな様のためには用意できませんね。

鰯など安いし、包丁で三枚におろすなんて難しい作業ではなく、頭を引っこ抜いて、親指の爪で押すようにして、頭の側から背骨と肉をはがせばきれいにおつくりが出来ちゃいます。
これなら、プロもアマチュアもあまり差がありません。
酢でもポン酢でもレモンでも少し使えば匂いもなくなります。
時間を置くなら、その酢で絞めておくと又別のものになります。
と、言いながら私はそちらの食べ方はほとんどしませんね。
ほとんど、『から揚げ』で食べます。
「あじ」や「きびなご」はまだしも、「かたくち・まいわし」の類をから揚げにすると、鰯から出る脂で天ぷら油がものすごく汚れます。

油を使いまわすときは。そのつもりで油のローテーションをしないといけないかもしれません。天ぷらーフライーからあげ…このローテーションが一番でしょうね。
少し下がったとは言え、油もまだ高いですしね。
揚げる鰯が 4 人前 200 円もしないのに、油のほうが…なんてことになります。

それから…
味などを丸のままでから揚げにする時には、はらわたと共に、エラの中身（ぎざぎざの赤いやつ）を取り除けば生臭さなどが消えますし、ゴジャゴジャ感も無くなります。
本当は頭から食べないと、奥様が他の好きな「ＤＨＡ」とやらいうものは激減するようですよ。

カメラは　オリンパスワイド
Tags:熊野の味 七里御浜 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-03-04 12:56

2009 年　03 月　05 日

熊野の旅　そろそろ旬の終わり　高菜

熊野は暖かい土地なのに、名物は冬のものが多いのです。
『サンマ丸干し』『サンマ寿司』『高菜漬け』…加工品は保存技術の進歩で年中出回りますが、本来は冬だけのものです。

『高菜漬け』の原料は『高菜』です。菜っ葉類の一種ですから、生育に適しているのは冬です。
どうしてこいつらは寒い冬に育ちたがるのか分かりませんが、寒風の中で葉っぱを縮らせながらも元気に伸びてゆきます。不思議な連中です。
ほうれん草などもそうですが、冬野菜の類は、生育が遅くても寒い露地で育てた方が味は良くなります。
暖かいところですと、育ちは良いのですがその野菜が本来持っている香りや味が少なくなります。

このプランターの隅っこに生えている『高菜』は落ち生えです。
でも、生き生きと立派に育っています。
海のそばの我が家では高那は良く伸びます。今年は暖冬でしたから余計に良く伸びました。ほんの少し植えつけてあるだけですが、家庭用の漬物器で少しずつ漬けて行きます。

『高菜漬け』は簡単な漬物です。
高菜と塩だけ…せいぜい唐辛子があればいいだけです。
漬物の原点のようなもので、漬けて３日ほどで食べられます。
『新漬け』の状態の時には、高菜本来の辛味も残っています。色も紫色が残ります。
日にちが経てば色はドンドン汁の方に出てしまい葉っぱ自体は緑色になってきます。
そして、しばらく置くと発酵が始まります。漬け汁に白い膜が張ってきます。乳酸発酵です。もちろん下手するとカビが生えてきますけどね。
乳酸発酵してくると『古漬け』になって、色は琥珀色・べっ甲色になります。匂いは発酵臭がして、所謂『臭い漬物』になるのです。
これはこれで、おいしいものですが、最近ではあまり食されなくなっています。
昔は自家用の漬物を漬け込めば、必然的に春が終わる頃には全部『古漬け』になっていましたから、『これを食べなかったら、捨てるために漬物を漬ける事になります。
タクアンでも、今は匂いのする沢庵が減っていますね。
グルメだ何だと言いつつ、日本古来の発酵食品文化は捨てられてきているようです。

私も、高菜漬けは古漬けにしないで、新漬けの間に冷凍保存します。

高菜も大根などと同じで、長日性の物ですから、日も長くなっているし、気温も上がってきているのでもうすぐ花が咲きます。塔が立ち始めると、この艶やかさが無くなります。当然硬く筋っぽくなり漬物にも使えなくなります。

春になって、水が温んで、菜っ葉を洗うのが苦にならなくなる時には『高菜漬けの旬』は終わるのです。
昔の女の人は、寒風の中、川で大量の高菜を洗って、樽一杯漬け込んだのです。
ヒビやアカギレの無いのはよほどお金持ちの奥様だけでした。でも、この高菜漬けが大事なおかずでしたから、漬け甲斐もあったのです。
決して箸休めでは無かったですからね。

？？？
野沢菜のように温泉のお湯で洗ったらどうなるのかなあ？？？
柔らかな菜っ葉だから溶けちゃうのかもしれませんね。
それに、高菜漬けの本場の飛鳥・五郷には温泉は無いですしね。

Tags:熊野市 熊野の味 昭和 by **je2luz** | 2009-03-05 11:28

2009 年 03 月 06 日

熊野の旅　月例　熊野市報　３月号より

早いもので又一月たちました。
例によって、『広報くまの』が配られてきました。
どこの広報誌も同じだと思いますが、あまり面白いことは載っていません、担当者はカメラを肩に色んなところで取材はしているのですがねえ・・・

人の動き

	平成２１年２月１日現在	
人口	20.642	(-8)
男	9.632	(-4)
女	11.011	(-4)
世帯数	10.086	(-7)

地味ですが、上から下までマイナスが並びました。
年に一度か二度プラス名は色時もあるのですが、そちらの方が珍しいですね。
このままで推移すると、今年の末頃に、世帯数が 10.000 を切るかも知れませんね。どこまで減っても、『市』から『町・村』への降格やお取り潰しは無いですから、当分は『熊野市』は安泰でしょう。

丸山千枚田　オーナー・守る会　会員募集
これの宣伝も載っています。締め切り間近です。

オーナー制度
会費　一口　３万円
特典　田植え・稲刈り体験・その他農業体験等
千枚田米 15Kg　地域特産品（１１月に発送予定）
宿泊施設・温泉入浴の料金割引
機関紙「めはり」の発送（年３回）

守る会
会費　一口　１万円
特典　千枚田米 1.5Kg
機関紙「めはり」の発送（年３回）
農作業はありません

オーナー・守る会の申し込みを希望する人は、申し込み用紙をお送りしますのでご連絡ください。

問い合わせ
（財）紀和町ふるさと公社
電話　05979-7-0640
地域振興課地域産業推進室
電話　05979-7-1115　（？？？市外局番の切れ目が変わるのは何時からかな？？？）

まあ、こんな要領です。
オーナーと守る会ではどうも米の量が１０倍違うような感じですが、よく活字が見えません。
ここにある、宿泊施設は紀和町の『瀞流荘』（せいりゅうそう）だと思います。日帰り温泉などもある、山間のひなびていない施設です。ひなびた温泉は、それのすぐ奥にある『湯ノ口温泉』でそちらには『バンガロー』があります。管理が同じなのでそちらも可能なのでしょうね。

カメラ　ツァイス・イコンタ 521/2・テッサー105mm
Tags:熊野市 千枚田 クラシックカメラ　丸山千枚田　by **je2luz** | 2009-03-06 12:02

2009 年　03 月　07 日

熊野の旅　４５年前　那智山　カラー写真

古い写真の整理中に古い『那智山』の写真が出てきました。

当時は学生で写真部に所属し、白黒写真ばかりでした。

カラーはまだネガはようやく普及し始める頃です、まだ、ポジが主力でした。

でも、高いし白黒のフィルム代がかさんでいたので旅行とかの時にしかカラーは使っていませんね。

フジとコダックが競争していたのですが、少し安い、フジのほうがほとんどです。

コダックには「エクタクローム」と「コダクローム」があり、発色原理がまるで違うものでした。

原理は別にして、「外式」と言われる「コダクローム」の方が保存性は良い…と言われていました。

４０年余り、紙の箱にほうりもまれ、東京ー熊野と移り、高温多湿の物置に放り込まれた悪条件の中で、「内式」のフジカラーは変色し、しみだらけ、色も抜け抜けになってしまっていますが、「コダクローム」はそこそこに保たれていました。

同じ場所の同じ箱の中ではっき差が出ています。

しかし、もはやこのややこしい現像処理の必要な「外式」はとうとう販売中止になりました。

もしあるとすれば、在庫限りでしょうが、もう日本国内では現像できないのかと思います。

この鳥居は昭和３９年（1964）夏の那智山のものです。

これは今と変わりはないと思います。

当時は『世界遺産』などという話はない時代です。

海外渡航は事実上庶民には閉ざされていた時代です。おまけｊに１ドル３６０円時代ですから、たとえ海外に出てもまともに飯も食えない頃です。だから、旅行と言えば国内旅行でした。

『農協』が華やかなりし頃です。お百姓さんたちも団体で旅をした頃です。それも、まだ、汽車の旅が主流でした。紀勢本線も全通し、名古屋や東京からも便利になりま

した。
　今と違う客層の人たちが、『熊野詣』に沢山来られました。
　那智の参道の階段脇にある、お土産物屋さんや那智、勝浦の旅館が元気だった時代です。
　今のように、「一村一品」「地場産品」「ふるさと名品」などというタイトルも無かった時代です。
　那智の土産でそれらしいのは、今もある『那智黒飴』『那智黒硯』『那智黒石置物』くらいです。ほかはこれまた今もある、焼印を変えたらどこの名物にでも化ける、せんべいや最中なんかでした。
　でも、昔のお客さんは、『旅行＝餞別＝お土産』と言う大昔からの習慣を守っていたのでこんなものも一杯売れたのです。
　物産展に行けば東京でも手に入る…なんて、故郷つぶしの企画なんかもありませんでしたしね。
　まあ、古きよき時代の観光地ですね。

　カメラは　　ニコン F+105mm2.5　コダクローム
Tags: 世界遺産 JR 紀勢本線 熊野古道　　by **je2luz** | 2009-03-07 12:46

2009 年　03 月　08 日

熊野の旅　青岸渡寺　仏教伝来は？

　那智山の『青岸渡寺』（せいがんとじ）の由来と、私が習った日本史の間には随分ずれがあります。
　『仏教は午後にやってくる』…つまり、仏教伝来は５５２年と覚えたものです。
　もっとも、これには色んな異論があったのですが、『青岸渡寺』のいわれとは２００年ほどのズレですから大きいです。

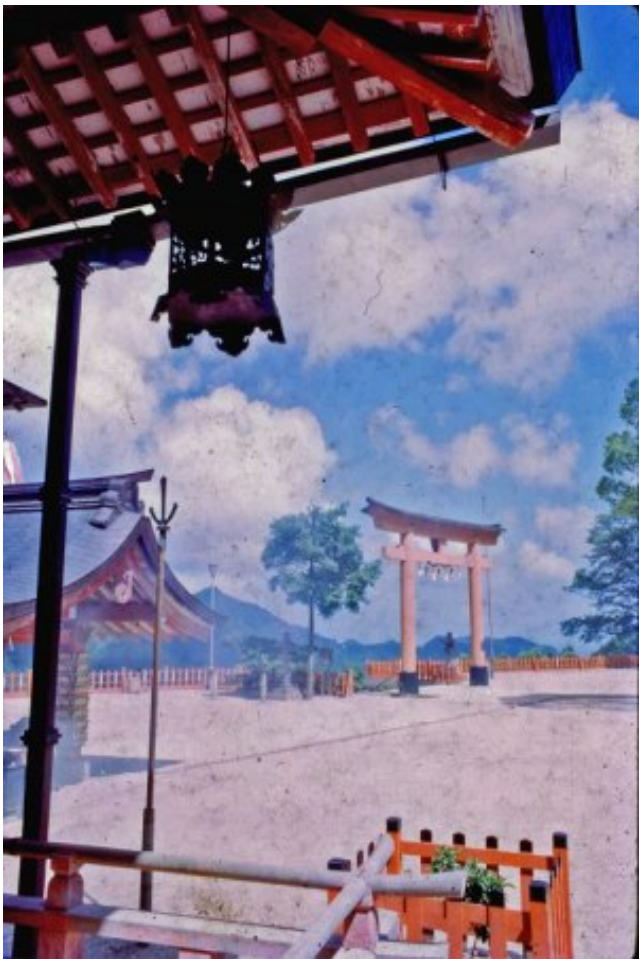
　そもそも、このお寺の縁起は…
　４世紀・３００年代に黒潮に流されて流れ着いたインドの坊さん『裸形上人』が那智の滝に打たれて千日の修行し、『観音様』を授かったのだそうです。
　この授かった『観音様』をお祭りしてお堂を建てたのが『青岸渡寺』の始まりだそうです。

　５５２年以前にも仏教徒だとかが日本にやってきたことはあるでしょう。その中には坊さんも居たかもしれません。
　日本人の中には、それに帰依して信者になったのも居たかもしれません。
　朝廷、中央政府関係に会えたのが５５２年ごろなのでしょうね。
　でも、日本の歴史が定まった頃にはすでに熊野信仰が始まったようですし、その信仰が『神社』であったにしても、その場所に金ぴかの仏像まであるお堂があったのな

ら、仏教の存在が記されていてもおかしくないですよね。
　なにしろ、『裸形上人』と言う名前まで残されているのですからね。

　流れ着いたのがインド人ではなく東南アジアの人だとしても、その仏教は『小乗仏教』の系列だったのかもしれません。

　それにしても、仏像ってえのは、結構粗末に扱われたのでしょうね。
　ここの観音様は滝壺におっちていたそうですし、善光寺の観音様も落っこちていたし、海の中から漁師の網にかかって上がってきたのもあるようですし…
　そうしておいたほうが、『都で買ってきた』とか言うより有難みが出るからかもしれませんがね。
　『観音信仰』が広く行き渡っていたからかもしれませんが、そんなのって『観音様』が多いですね。
　その、『落っこちていた仏像』を見つけて祀った人のことは『いい人』として伝わっていますが、捨てた人の伝説…『罰が当たった言い伝え』は聞かないですね。
　やっぱり仏様たちは御心が広いので、そんなことでは『罰』は与えないのでしょう。



　と、言うことで、仏教伝来より２００年も前から那智のお山では『観音様』が祀られていました。
　科学的に製造時期を追及するなんて罰当たりなことをやっちゃあいけませんよね。
　極楽浄土に近い那智のお山ですから、ただひたすらに、『観世音菩薩のご加護』に期待をかけてお祈りしてください。
　写真は『青岸渡寺』ではなく『那智大社』の方です。

この左手前方に『那智の滝』があります。

カメラは　**ニコンF+28mm3.5？　コダクローム**

Tags:熊野古道 熊野の味 熊野三山　by **je2luz** | 2009-03-08 12:04

2009年　03月　09日

熊野の旅　現代の利害関係？　東牟婁郡

昭和の大合併で山の中にも行政法上では『町』が出来て『村』が減りました。
それから半世紀して、平成の大合併で今度は『町』も減って『市』が増えています。
実態は、『村』だった時の方が集落が大きく活気があったのですが、『町』になった頃に過疎化が始まり、やって行けないから『市』に併合されてゆきます。『村』時代の半分以下なんてのはまだましな方でしょう。

先ごろの合併では、『熊野古道』の縁なのでしょうか、『本宮町』が川の流れではなく、山を越えて『田辺市』と合併しました。
『新宮』と『本宮』の縁も薄くなっているのですね。
平成の合併での積み残し分の合併話は各地でくすぶり、進行中みたいですね。
和歌山県側ですが、『新宮市』と『那智勝浦町』の合併協議会が出来ているそうです。
まあ、この辺は元々『東牟婁郡』全体が新宮の経済圏で、県事務所なども新宮にあったので、人の交流も多い町同士でしたからこの組み合わせは自然ものなのです。
新宮が当然中心で市役所は新宮になるでしょう。
出張所ではなくもっと機能のある分庁のようなものが那智勝浦に出来る方向らしいです。

観光面では『新宮・速玉大社』と『那智大社・青岸渡寺』の二山を一緒に扱えるようになりますね。
しかし、『熊野三山』のうち、『本宮大社』だけが外れてしまいます。
一旦、田辺に入ったものを別れると言うことは事実上出来ませんからね。
外から見ると、どうせなら三山一緒になればよいのに…と、思えます。

『熊野三山』を抱えるところですから、当然のこととして『熊野』を名乗るのが自然なのですが、昭和の大合併の時、熊野の端っこの『南牟婁郡』の8カ町村が合併して、その『熊野』を使ってしまいました。
ここも、今更『熊野市』を返上できませんし、例え名前を変えても、本家側がそのまま『熊野市』を使うわけにも行きませんしね。
お饅頭やせんべいなら、『本家』『元祖』『宗家』などと頭に付ければ済んじゃうみたいですが、町の名前ではそうも行かないでしょう。

それに、三山が一緒になれないとすれば、『熊野三山市』とかも名乗れませんしね。

かつては『新宮市』の知名度も社会の教科書に「材木の集積地」として載っていたり、「新宮高校」が甲子園に出ていたり…で、そこそこあったのですが、近年では落ちてしまったようです。
『新宮』を「しんぐう」と読んでくれない若い人まで出てきていますからね。

Tags:熊野古道 世界遺産 昭和　那智駅　特急くろしお　by **je2luz** | 2009-03-09 12:33

2009 年　03 月　10 日

熊野の旅　本日写真のみ　三輪崎駅

新宮と那智・勝浦にはさまれて、なんとなく存在感の薄い三輪崎です。
こじんまりした漁師町の風情です。
取り残された・・・と言う感じの場所ですから、よその人が入り込むことも無いでしょうね。
紀勢線で新宮まで一駅…
でも、自転車や徒歩では間の広角の山が邪魔をします。
ここのことはほとんど何も知りませんね。
一杯何かがあるはずなんですが・・・

Tags:国道４２号 紀勢西線　　by **je2luz** | 2009-03-10 11:45

2009 年　03 月　11 日

熊野の旅　紀勢本線　西・東

紀勢本線は元々東西に別れ、紀勢東線と紀勢西線でした。
難工事区間を抱えた鉄路ではこうした例も多かったですね。磐越東線・磐越西線なんてのもあったように思います。

紀勢東線は参宮線と相可口（おうかぐち・現多気駅）で別れて紀州をめがけて南下してきました。尾鷲までは戦前の昭和９年（1934）に開通しましたが、それから南は海岸線を走るとはいえ、リアス式海岸で路線の半分以上がトンネルと言う、その当時としてはものすごく大変な区間でもあり、戦時色が濃くなってからは中止されました。
紀勢西線は戦前の昭和１５年（1940）に和歌山ー紀伊木本（現熊野市駅）が全線開通しています。この線も終点の『紀伊木本駅』を出るとすぐにトンネルに入りまさにトンネルだらけになるので一つ目のトンネルは出来ていたように思いますがその

先は中断されていました。

　昭和３１年（1956）にほんの少し伸びて新鹿までになり、一部の普通列車が入るようになりました。
　その頃は東線側の三木里との間の工事が盛んだったので資材運搬も盛んに行われていましたね。
　高校の遠足で、まだ珍しかった『木本ー新鹿』の汽車に乗って行きましたが、一両かなんかしかない客車には乗れないので、国鉄公認で無蓋車（トムかトラかは覚えていません）に乗り込んだものです。
　たった、6.8Km だそうですが、無蓋車で蒸気機関車と言う今の日本では考えられないような遠足でした。
　今のアジアや南米チリあたりの光景と変わらないことが半世紀前には日本でもあったわけです。

　全通したのが昭和３４年（1959）７月１５日です。
　今年の７月１５日に５０年を迎えます。
　その日から紀勢東線・紀勢西線が無くなって、『紀勢本線』になったわけです。
　ようやく、長年の願いがかなって一つに結ばれました。

　しかし、この『紀勢本線』は昭和６２年（1987）に離縁させられることになりました。
　国鉄民営化の煽りで、またまた東西に裂かれました。
　今度は近畿と東海、三重県と和歌山県の境で東海旅客鉄道と西日本旅客鉄道の二つの会社に分かれるようになりました。
　分かれ目は『新宮駅』になりました。
　「新宮ー熊野市」の元・紀勢西線側も東側にくっつけられることになりました。

　その後、紀勢西線は電化され、東海側は電化されることはありませんでした。
　東海側は今でもジーゼル機関車と気動車です。でも、東海側の車両は西日本側の線路を走れます。
　『特急・南紀』なら紀伊勝浦まで走ってゆきますが、『特急・くろしお』は新宮駅から数百メートル走ったら止まってしまいますから、こちらには来られません。不便な車両です。
　・・・なんて、負け惜しみですね。
　それ以外では、ジーゼルは加速は悪いし音はうるさいし…なんですけどね。

　線路の写った紀州の写真では、東海側か西日本側かすぐに分かります。
　たとえ車両が無くても…無い方がすっきり分かります。
　だって…上に架線があるかないかですぐに分かりますからね。
　かくして、乗り継ぎのあまり良くない東西の紀勢線があるのです。
　西側は、『きのくに線』なる名称を使っているようですね。
　離縁して長くなると苗字まで変わったようです。

カメラは　　オリンパス３５**C**・昭和３０年ごろの写真機です。

Tags:JR 紀勢本線 昭和 紀勢西線　　神志山駅　特急南紀　　by　| 2009-03-11 11:50

2009 年　03 月　12 日

熊野の旅　紀勢本線全通５０周年だけど・・・

７月１５日が紀勢本線全通５０周年だから夏休み向けにＪＲ東海でものすごくお得なイベント切符でも出ているかなあ・・・と、ちょっと見てみましたが今のところは見つかりませんでした。

乗客数も少なくて力の入らない路線には違いありませんがね。

この週末には恒例のダイア改正があります。

毎年、ダイア改正はあるのですが、十数年前に線路の改良があって特急列車の所要時間が大幅に短くなった時以降には時刻表に大きな変更は無いように思います。

紀勢本線、ＪＲ東海側では特急の４往復を含めても旅客列車は１４往復しかありません。

これに、下りは朝、上りは夕方になりますが、貨物列車が一本加わります。

それがすべてですから。列車の写真を撮る時には時刻表が必需品です。

マニアの方だと、『この列車はどの車両だから…』などと言って時刻表を片手にやるのですが、単純に列車の入った風景が欲しいだけでも一時間に上り一本、下り一本の路線ですから下手すると延々と待たされ、飽きてよそ見しているうちにトンネルから出た列車が次のトンネルに入ってしまいます。

普通の線なら、『まあ良いや…次の確定で我慢しよう…』なんていえるのですが、ローカル線では列車が見えることが貴重なことですからね。

このことが逆に列車に対する警戒心の薄れ二もつながるようで結構危ないことも

あるようです。

　まあ、この紀勢本線全通５０周年記念でお得な情報にでも気が付いたらここに載せます。
　と、言っても、汽車で来る人は一体どのくらいいるのいるのやら…
　それより、今月末から始まる高速道路の１０００円均一の方が観光旅行の計画を立てる人には関心が高いかもしれませんね。
　『東名世田谷』から『大宮・大台』まで、450ＫＭあまりが１０００円になるようです。
　一応、２年限定だそうですからその間が狙い目なのかも・・・

神志山駅　　y **je2luz** | 2009-03-12 11:29

2009 年　03 月　13 日

熊野の旅　桜の花が咲き始めました・・・

　暖かかったり寒かったり・・・
　平均すればかなり暖かい日の多い今年は桜も早そうです。
　桜の花が咲きそろうのは決して南の方が早いとは言い切れないようです。
　寒暖の差なのか、その地方に広がった桜の遺伝子によるものなのかは分かりませんが、このあたりの桜は、秋や冬の狂い咲きは別にして決して早くも無いようです。
　日当たりの良いところより日当たりの悪いところの方が早い木もあります。
　今年の開花予測でも名古屋より南にある津の方が２日ほど遅いとか…

　ものすごく差のある桜ですが、早い木はぽつぽつと花を開かせ始めました。
　後半月ほどで花見のシーズンですからね。

熊野の花見は『神川町』と『大泊』が定番です。
イベントは『神川桜まつり』なのですが、NET の方で検索してもすっとは引っかかりませんでした。
市役所に電話するとまだ本庁の観光スポーツ交流課の方には連絡が無いようですが、神川出張所に確認をとってくれました。

『碁石の里　熊野神川さくらまつり』…４月５日日曜日　午前１０時から
場所　熊野市神川町

国道４２号や一般の観光地からは一山越えたところなので、来たついでに見かけたから…なんて立ち寄れるイベントではありません、
結構険しい峠越えで少なくとも３０分は走ってもらわないといけません。
地元の手作りで色んな出店も並んでします。
熊野名物、『めはり寿司』は本場です。そんな、田舎風のものが並びます、田舎風しか並びません。
入場料なんて取りません。
多分、仮説ステージでカラオケもやるでしょう。飛び入りで歌うことも可能です。
若い穂とが減ってしまったので、このイベントの準備をするのも大変になってきています。
去年、神川へ写真を撮りに行ったときは地元の有志の人が準備していました。有志と言っても人が減っているし高齢化が進んでいるので、動ける人全部って感じですが・・・　もし、当日に熊野にお見えになり、暇を持て余したら一山越えて花見に出かけてください。

隣接のところでは・・・
第２6 回さくら祭り
奈良県吉野郡下北山村池原　下北山スポーツ公園　（国道１６９号線脇）
４月 4 日（土）４月 5 日（日）
と、言うのもあります。
こちらの方が国道１６９号線のそばなので交通の便は良いです。と、言っても公共交通機関では無理ですがね。
こちらは村のイベントなのでポスターもプログラムもしっかり作られています。
興味のある方はこの**池原桜まつりプログラム**をクリックしてください。

同じように山間部になるので同じ週末に桜まつりがぶつかることが多いです。
そして、ぶつかると、熊野市中心部からでも距離は少し遠くても。国道１６９号線の方が走りよいので池原の方に客を取られがちです。
ともに、池原ダムと七色ダムのすぐ下と言う場所なのですが、池原の方がすぐ後ろに巨大なダムがそびえているのが見えるだけ人によっては恐怖感を覚えるでしょうね。
電源開発と建設省の両方の係りは『地震で壊れることはありません』と、胸を張っ

て答えてくれていましたがね。
　首を傾げたら大変なことになりますから、どんなことがあってもそう答えるでしょうね。

　これは去年の「神川桜祭り」の会場です。今年より一週間ほど遅い日程だったようです。

Tags:国道 169 号 国道４２号線 熊野の味　　by **je2luz** | 2009-03-13 13:34